

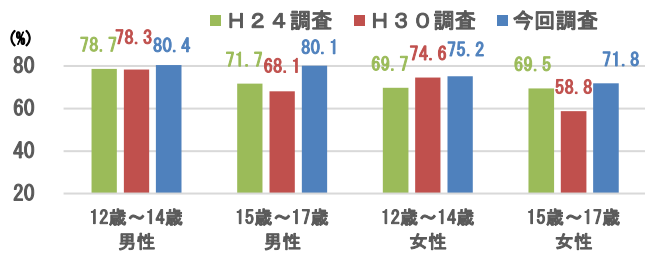
報告書 概要版（案）

① 調査の概要(P1~P4)

地域・対象	山梨県全域の12歳～30歳の男女 (令和5年4月1日現在の満年齢)	抽出方法	18歳～30歳：層化二段無作為抽出法
標本数	12歳～17歳(1,000人)、18歳～30歳(2,000人)の3,000人		12歳～17歳：県内中学校、高等学校を無作為に抽出し、学校ごとに在校生を無作為に抽出
調査期間	令和5年6月16日～令和5年8月6日	回収結果	回収数 1,831 (回収率 61.0%)

② 学校に関する事項(P5~P12)

I 先生は、あなたのことをわかってきているか(理解意向)



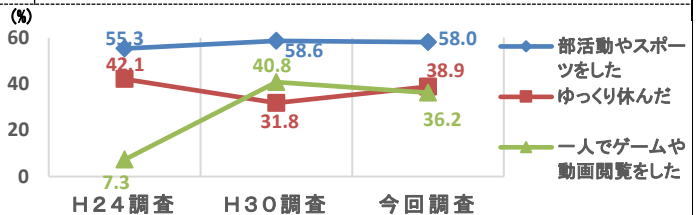
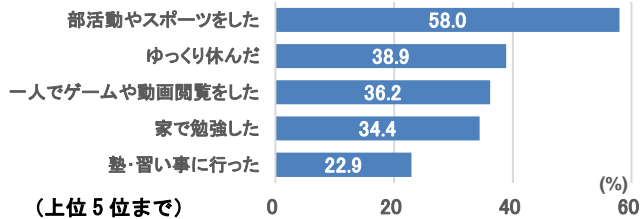
・男女年齢層別に過去調査と比較すると、「思う」「どちらかといえば思う」の「理解意向」が高い状態であり、前回調査よりも全ての男女年齢層で高くなっている。

II 学校に行きたくないと思ったことがあるか(不登校意向 単位:%)

	いつも思っている	思ったことがある	思ったことがない	不登校意向
12歳～14歳男性	6.4	34.0	59.6	40.4
15歳～17歳男性	7.8	44.6	47.6	52.4
12歳～14歳女性	9.1	40.6	50.4	49.7
15歳～17歳女性	15.7	47.6	36.7	63.3

・男女年齢層別にみると、「いつも思っている」「思ったことがある」の「不登校意向」は、12歳～14歳男性において低く、15歳～17歳女性において高い。

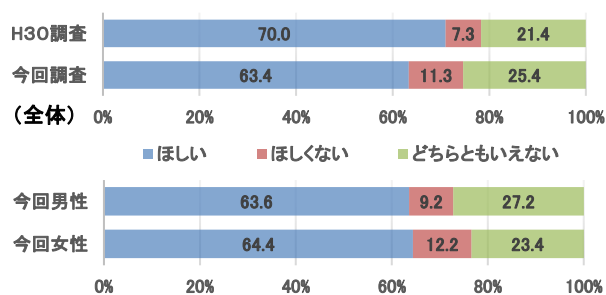
III 土・日曜日に、おもに何をしてお過ごしのか



・前回調査と比較すると、「一人でゲームや動画閲覧をした」の割合が減少し、「ゆっくり休んだ」の割合が増加している。

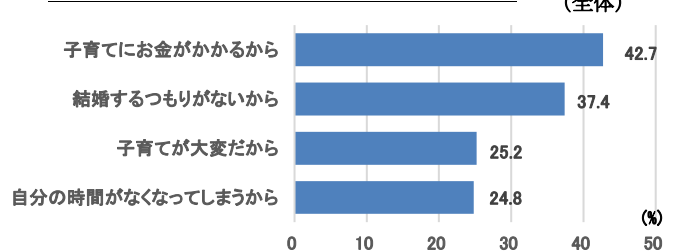
③ 将来像に関する事項(P13~P19)

I 将来、子どもがほしいか



・前回調査と比較すると、子どもが「ほしい」は減少している。

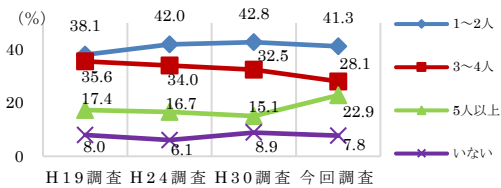
II どうして子どもがほしくないのか(上位4位まで)



・「ほしくない」と回答した人に、「どうして子どもがほしくないのか」と聞いた。全体では、「子育てにお金がかかるから」が最も多い。
※男性、女性においても同様の回答が最も多い。

④ 家族・友人関係に関する事項(P20・P25～P32)

I 心を開いて話せる親友が何人いるか



・過去調査と比較すると、親友が「5人以上」が増加し、「1～2人」「いない」はやや減少し、「3～4人」は減少している。

II 悩み事があったとき、誰に相談するか

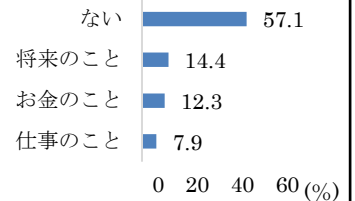
(上位5位まで 単位：%)

	親友	お母さん	お父さん	同級生	恋人
H19調査	55.8	35.4	8.7	25.2	8.0
H24調査	53.0	37.3	10.1	19.7	10.6
H30調査	42.2	41.9	12.1	20.1	9.9
今回調査	50.0	46.8	13.6	10.8	8.7

・過去調査と比較すると、「同級生」は減少し、「親友」「お母さん」は増加している。

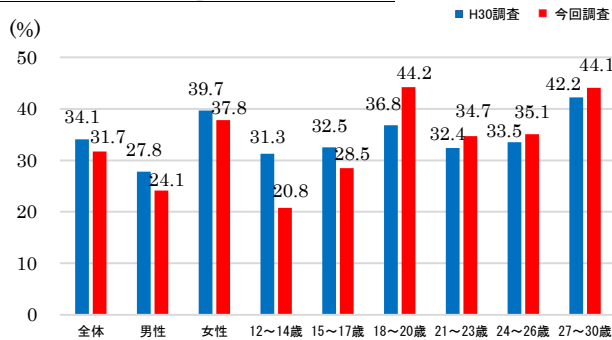
III 新型コロナウイルス

感染拡大により増した悩みは



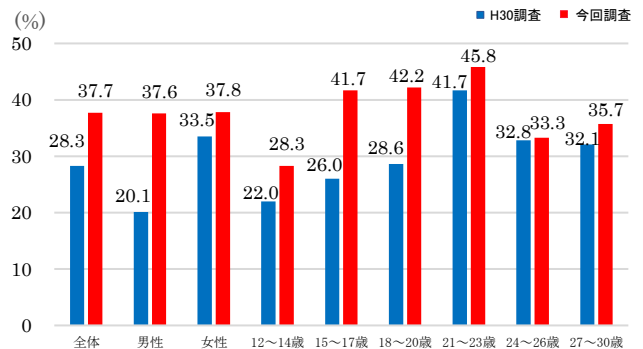
・新型コロナウイルスの感染拡大により増した悩みは「ない」が最も多く、以下「将来」「お金」「仕事」と続いている。

IV「生きていきたい」と思ったことがあるか



・前回調査よりも全体、男女とも「生きていきたい」と思ったことがあるは減少している。
・中高生世代は、「生きていきたい」と思ったことがあるが前回調査より減少したが、18歳～30歳の年齢層では増加している。

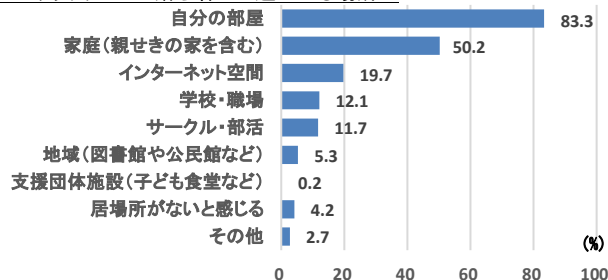
V「生きていきたい」と思った時、だれか相談したか



・前回調査と比べると、だれかに相談した人の割合が男女と全ての年齢層で増加している。中でも15歳～17歳(高校生)と18歳～20歳で大幅に増加している。

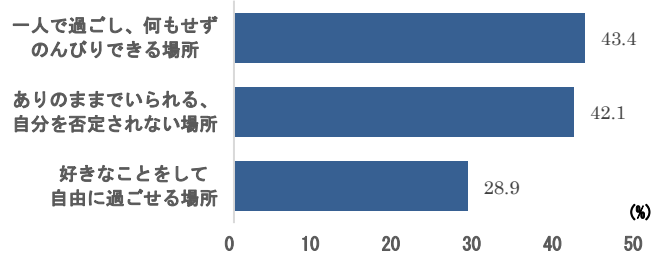
⑤ 新 居場所・自己肯定感に関する事項(P21～P24)

I リラックスして落ち着いて過ごせる場所は



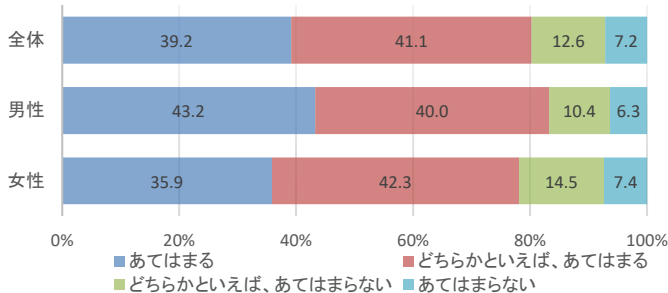
・「自分の部屋」が一番落ち着いて過ごせる場所で、続いて「家庭(親せきの家を含む)」、「インターネット空間」の順である。これは男女、全ての年齢層においても同じ結果である。

II 居場所がない人は、どのような場所がほしいか(上位3位)



・全体では、「一人で過ごし、何もせずのんびりできる場所」「ありのままでいられる、自分を否定されない場所」と続いている。男性は「一人で過ごし、何もせずのんびりできる場所」、女性は「ありのままでいられる、自分を否定されない場所」が1位となっている。

III 自分にはよいところがあると思うか

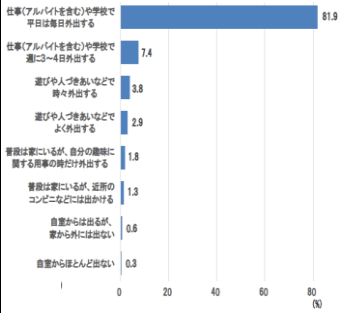


	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
12歳～14歳	38.6	40.2	12.7	8.4
15歳～17歳	34.4	43.0	13.3	9.2
18歳～20歳	31.6	43.3	20.3	4.8
21歳～23歳	44.1	43.5	7.6	4.7
24歳～26歳	45.6	35.7	9.9	9.8
27歳～30歳	48.3	39.5	8.8	3.4

・「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と自分を肯定的にとらえている人が全体で約8割いる。また、男女別・年齢別においても、7割以上が自分を肯定的にとらえている。

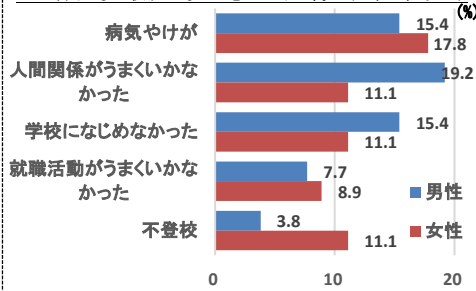
⑥ 外出傾向に関する事項(P33～P36)

I 普段どれくらい外出するか



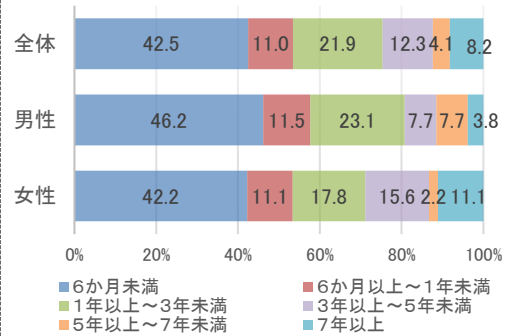
- ・「平日は毎日外出する」が81.9%で、およそ5人のうち4人は毎日外出している。
- ・外出頻度が少ない人の割合は、全体の4%である。

II 外出しない状況になったきっかけは何か(上位5位まで)



- ・男性は「人間関係がうまくいかなかった」、女性は「病気やけが」が最も多い。
- ・女性より男性の方が対人関係や環境に関わる項目で割合が高い。

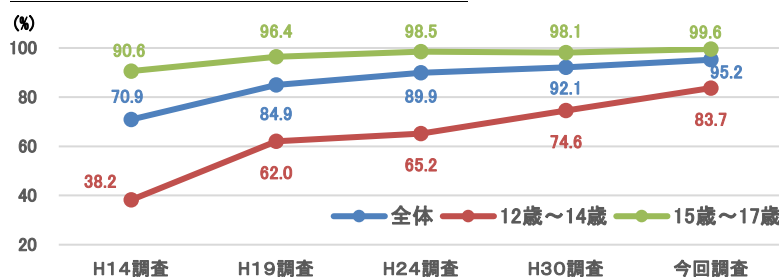
III 外出しない状況になってどのくらい経つか



- ・男性、女性とも「6ヶ月未満」が最も多い。
- ・男性より女性の方が、外出しない状況期間が長い。

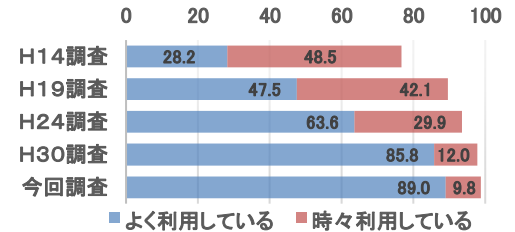
⑦ インターネット(SNS、動画サイト、オンラインゲームなど)の利用実態に関する事項(P37～P45)

I 自分のスマートフォン・携帯電話を持っているか



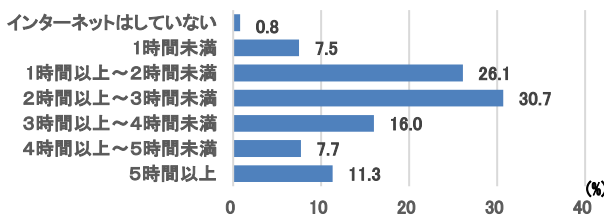
- ・前回調査と比較すると、12歳～14歳(中学生層)の所持率が大幅に増加し、およそ5人のうち4人が、スマートフォン・携帯電話を所持している。

II インターネットを利用しているか



- ・過去調査と比較すると、「よく利用している」は、調査を重ねるごとに増加している。

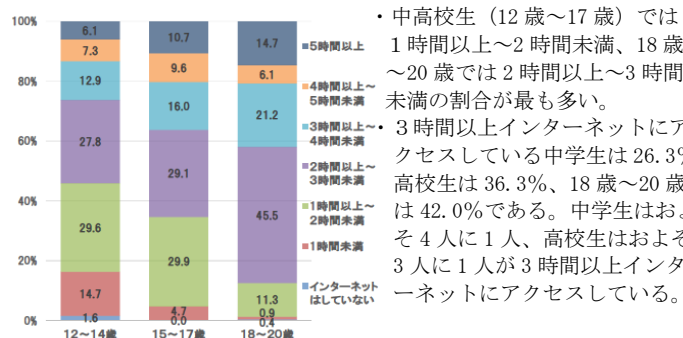
III 一日どのくらいインターネットにアクセスするか(学校や仕事のある日)



	していない	1時間未満	1時間以上～2時間未満	2時間以上～3時間未満	3時間以上
H30調査	2.7	22.0	25.3	33.9	15.6
今回調査	0.8	7.5	26.1	30.7	35.0

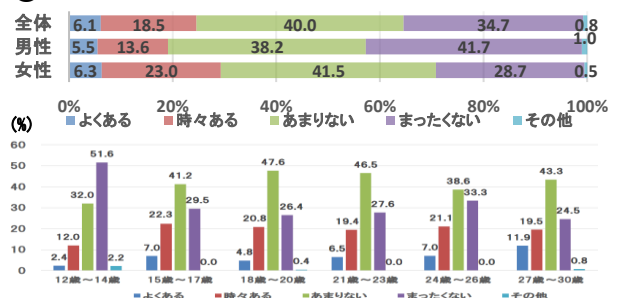
- ・一日に「2時間以上～3時間未満」が最も多く、3時間以上は、前回調査と比較すると2倍以上で、全体的にインターネットにアクセスする時間が増加している。

※前回調査では「4時間以上～5時間未満」と「5時間以上」がなかったため、今回の調査項目でそれらは全て3時間以上で計算している。



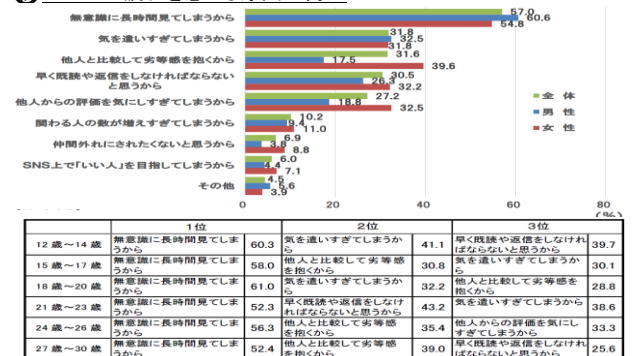
- ・中高生(12歳～17歳)では1時間以上～2時間未満、18歳～20歳では2時間以上～3時間未満の割合が最も多い。
- ・3時間以上インターネットにアクセスしている中学生は26.3%、高校生は36.3%、18歳～20歳は42.0%である。中学生はおおよそ4人に1人、高校生はおおよそ3人に1人が3時間以上インターネットにアクセスしている。

IV SNS 疲れを感じることもあるか



- ・全体では、「あまりない」「まったくない」を合わせると、74.7%でおおよそ4人中3人が疲れを感じていない。どの年齢層でも、65%以上は疲れを感じていないが、年齢層が上がるにつれ、疲れを感じている。

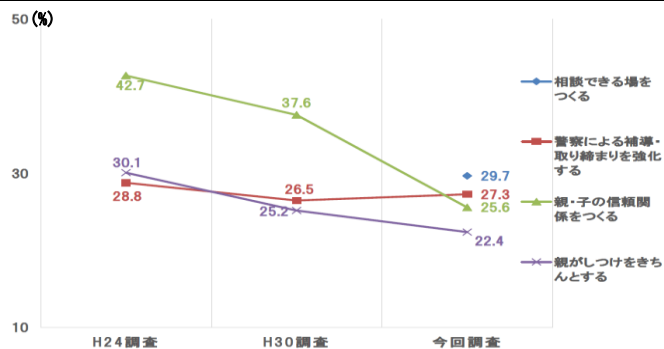
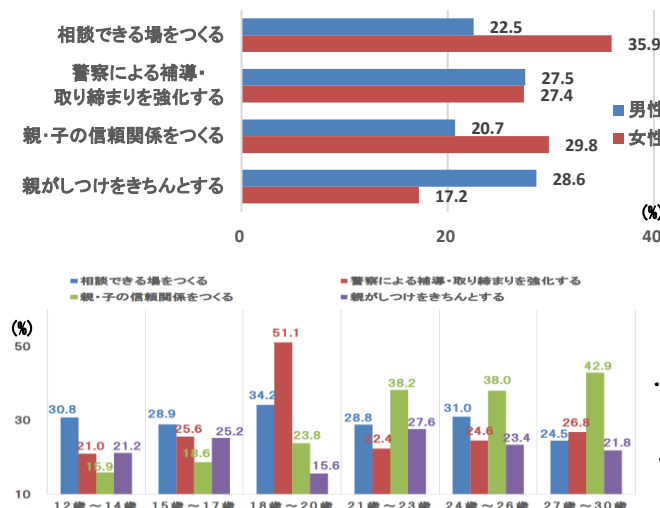
V SNS 疲れを感じる原因は何か



- ・SNS疲れの原因は、男女、全ての年齢層において「無意識に長時間見てしまうから」が最も多い。

⑧ 青少年非行に関する事項(P46～P51)

I 非行をなくすために何が必要か(上位4位まで)

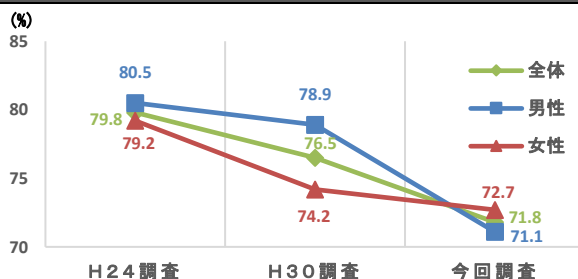
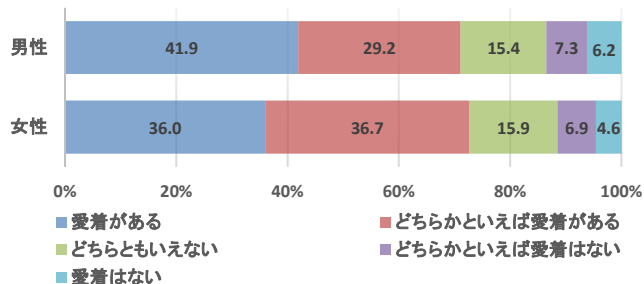


注)「相談できる場をつくる」は今回調査から新たな選択肢として取り入れた。

- ・男性は「親がしつけをきちんとする」、女性は「相談できる場をつくる」が最も多い。
- ・前回調査と比べると、「親・子の信頼関係をつくる」が大幅に減少しているが、年齢層別では21歳～30歳で最も高い割合である。

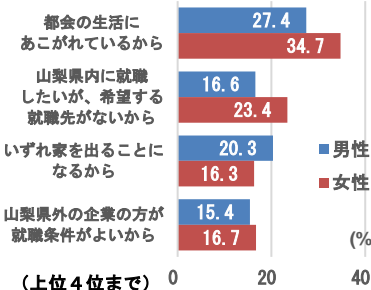
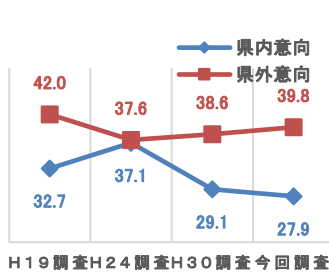
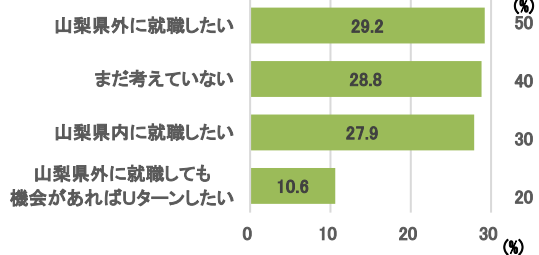
⑨ 郷土等に関する事項(P52～P60)

I 今住んでいる地域に愛着を感じるか



- ・「愛着がある」「どちらかといえば愛着がある」の「愛着がある意向」は、男性(71.1%)より女性(72.7%)の方が高い。前回調査に比べると低くなっている。

II 将来どこに就職したいか／山梨県外に就職したい理由

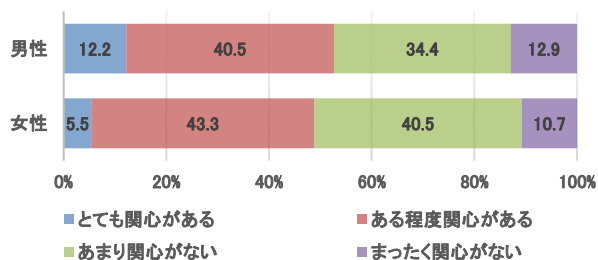


- ・「県内に就職したい」の「県内意向」と、「県外に就職したい」「機会があればUターンしたい」の「県外意向」は、前回調査よりもさらに「県内意向」よりも、「県外意向」が高まっている。

- ・県外に就職したい理由は、男女ともに「都会の生活にあこがれているから」が最も多い。

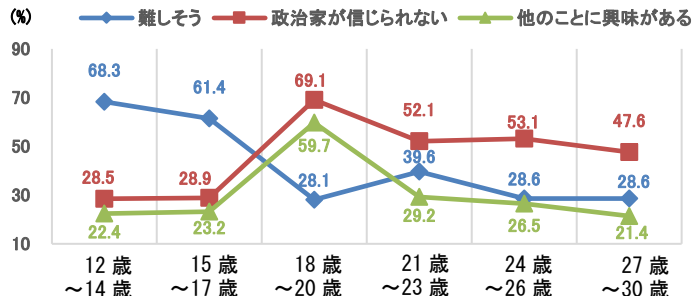
⑩ 社会参加活動に関する事項(P61～P66)

I 国や地方の政治にどの程度関心があるか



- ・男女別にみると、「とても関心がある」「ある程度関心がある」の「関心がある意向」は、男性が52.7%、女性が48.8%で、女性よりも男性の方が政治への関心が高い。

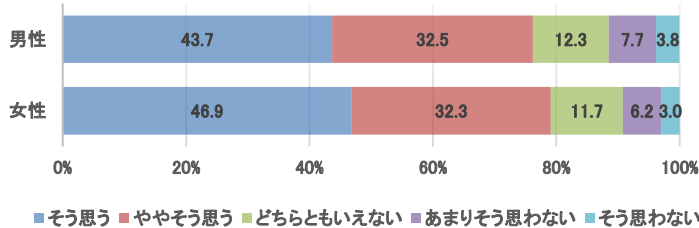
II 政治に関心のない理由は何か(上位3位まで)



- ・年齢別にみると、12歳～17歳は「難しそう」の割合が最も高く、18歳～30歳は「政治家が信じられない」の割合が最も高い。

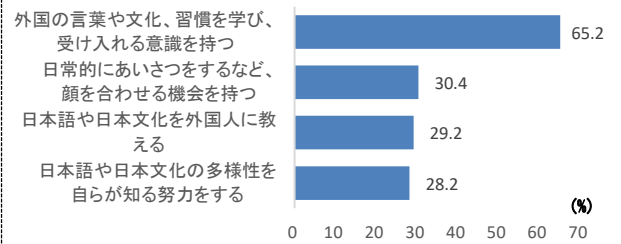
⑪ 新 多文化共生に関する事項(P67~P68)

I 文化や習慣が異なる外国の人との交流は意味があるか



・男女別にみると、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた「意味あり」は、男性が76.2%、女性が79.2%で男性よりも女性の方が外国の人との交流は意味があると思っている。

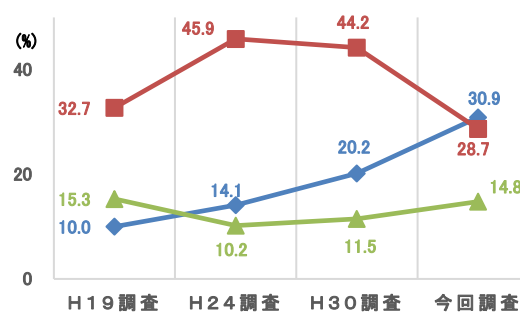
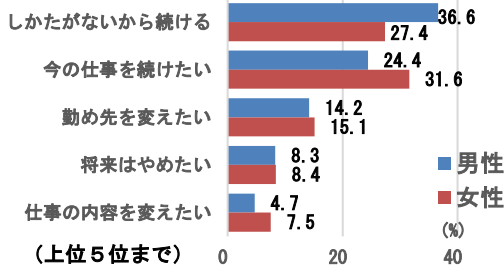
II 文化や習慣が異なる外国の人が共に安心して暮らせ、活躍できる地域社会にするために必要なことは何か(上位4位まで)



・「外国の言葉や文化、習慣を学び、受け入れる意識を持つ」が全体で最も多いが、男女別、年齢層別においても同様の結果である。

⑫ 仕事に関する事項(P69~P73)

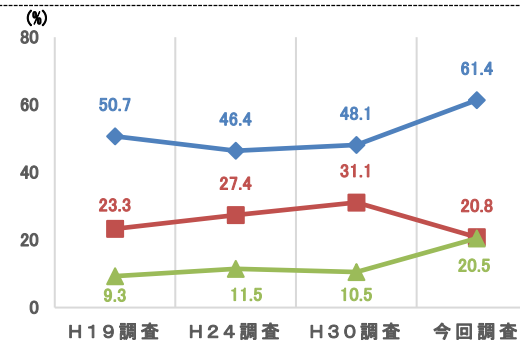
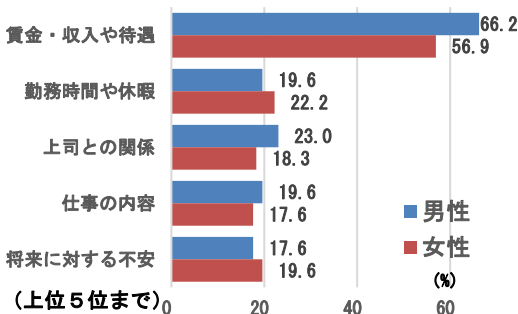
I 今の仕事について、どう考えているか



・男性は「しかたがないから続ける」、女性は「今の仕事を続けたい」が最も多い。

・過去調査と比較すると、「しかたがないから続ける」が調査を重ねるごとに増加している。

II 今の仕事に対して不満に感じていることは何か

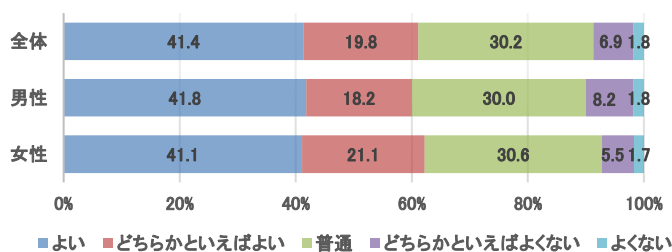


・男女とも「賃金・収入や待遇」に対する不満が最も多く、過去調査と比較しても、大幅に増加している。

・過去調査と比較すると、「上司との関係」が増加している。

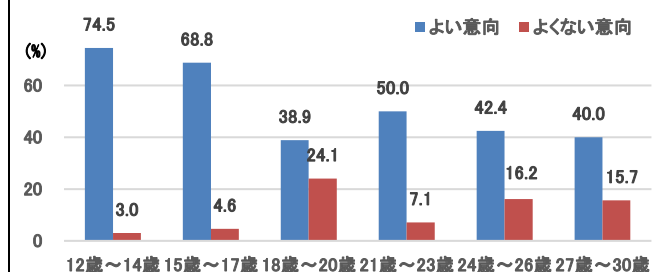
⑬ 子どもの貧困に関する事項(P74・P75)

I 現在の暮らし向きは、世間一般と比べてどうか



・「よい」「どちらかといえばよい」の「よい意向」は男性が60.0%、女性が62.2%で、ほぼ同じであり、どちらも「よい意向」が60%以上である。

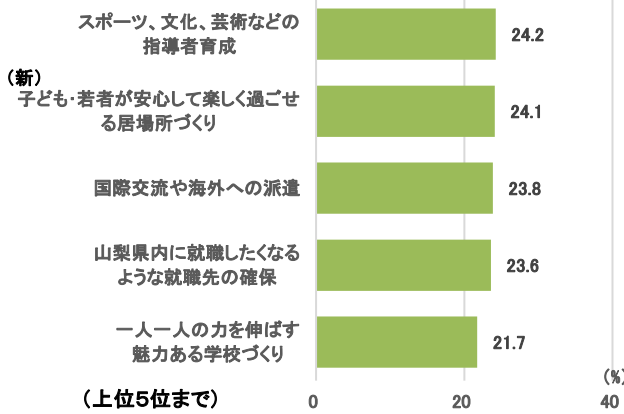
「よい意向」と「よくない意向」年齢層別



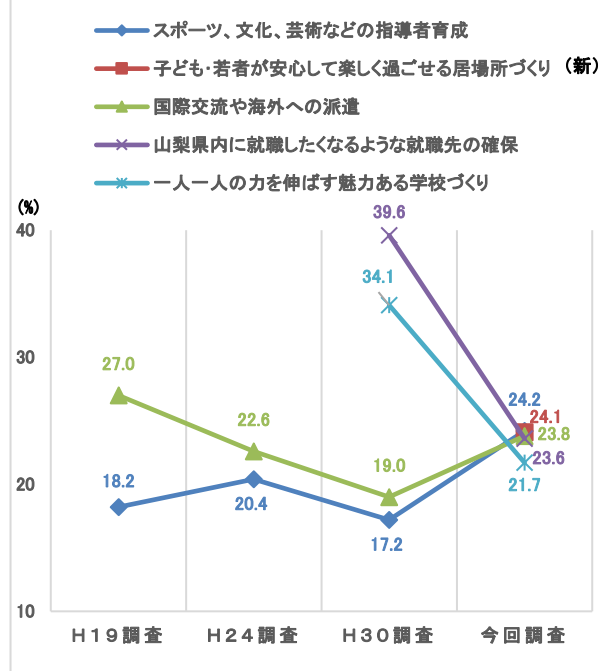
・「よい意向」と「よくない」「どちらかといえばよくない」の「よくない意向」を年齢層別に比較すると、低年齢層(12歳~17歳)で「よい意向」の割合が高い。

⑭ 県政に関する事項(P76・P77)

I 子ども・若者の健全育成の取り組みで特に力を入れていくべきことは何か

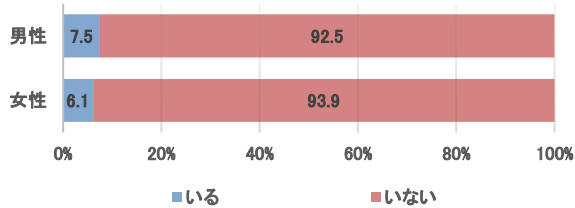


- ・「スポーツ、文化、芸術などの指導者育成」が24.2%と最も多い。今回調査から選択肢に取り入れた「子ども・若者が安心して楽しく過ごせる居場所づくり」(24.1%)も上位となっている。
- ・過去調査と比較すると、前回調査から選択肢に取り入れた「山梨県内に就職したくなるような就職先の確保」と「一人一人の力を伸ばす魅力ある学校づくり」の割合が、大幅に減少している。



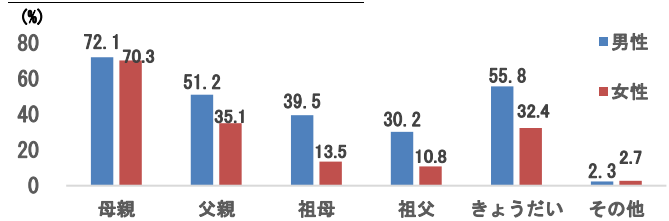
⑮ ヤングケアラーに関する事項(P78～P81)

I 家族の中に、お世話をしている人はいるか



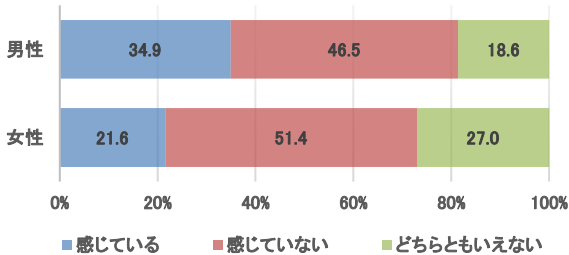
- ・男女別にみると、「家族の中に、お世話をしている人がいる」は男性が7.5%、女性が6.1%で、女性より男性の方が割合は高い。

II お世話を必要としている人はだれか



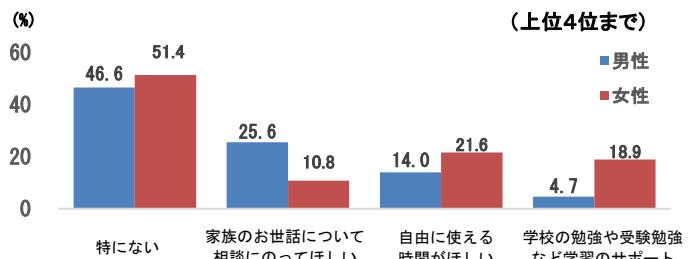
- ・男性、女性ともお世話を必要としている人は「母親」が最も多い。
- ・女性より男性の方が、お世話を必要としている人の項目で割合が高くなっている。

III お世話をすることで負担を感じているか



- ・男女ともに「感じていない」が最も多く、女性は半数以上である。
- ・女性より男性の方が、お世話をすることに負担を感じている割合が高い。

IV 学校や周囲に助けてほしいことや、必要としている支援は何か



- ・男女ともに「特にな」が1位(男性:46.6%、女性:51.4%)で、以下、男性は「家族のお世話について相談にのってほしい」(25.6%)、女性は「自由に使える時間がほしい」(21.6%)となっている。
- ・女性より男性の方が内面的支えを必要としている。